

リーディングDXスクール事業【実践事例】

能美市立寺井中学校（石川県）【指定校】

【取組内容②】 情報活用能力を育むための課題設定や学習活動

事例

- ・明治から昭和の曲の歌唱において歌詞の内容の情景を思い浮かべるために、インターネット検索や画像を整理・比較して、共有をする。
- ・書写でスライドに自分の1時間の活動についての写真や今後の目標を記録する。
- ・朝食に関するアンケートを全校生徒に取り、それらをグラフ化したり、テキストマイニングしたりして整理し、比較して、寺井中生の朝食に関する意識を推測する。
- ・学校の周りに生えている植物を写真で撮り、googleカメラや検索などを用いて植物の名前や生息の特徴などを表にまとめ、クラス内で共有する。
- ・クロムブックを使って、自分で情報を取り理解につなげる。
- ・スマートフォンのメリットデメリットを調べ、自分の意見をまとめ発信する。
- ・小学校から継続してタイピングソフトを使用し、タイピング能力を育む。



初めは慣れなくても、新しいソフトに対して生徒はすぐ対応することができた。その教科でのみ使用するのではなく、使いやすさやソフトの特徴をつかみ他教科でも使おうとする姿勢が見られた。また、分からないことや忘れた既習事項などもすぐに端末を取り出し、調べる生徒も増えた。板書をノートにとるだけでなく、大事な事柄を写真に撮り保存、その後で周りとは相談しながら理解に努める生徒もいる。委員会活動や学級活動では、アンケートフォームを作成し、集計・結果を表示し考察するという一連の流れを生徒同士で進める姿もある。大人が感じた良さを、生徒と共有することで生徒も端末利活用の良さを実感することができ、共に高め合う1年となった。情報モラルの育成などの課題もあり、生徒指導・GIGA担当と連携を図りながら来年度も更なる利活用の幅を広げていく。

考察